

## 学校歯科保健研究協議会

「生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり推進事業」

～望ましい生活習慣の形成を目指して～

### 研究主題

「生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり」

—よりよい生活習慣をめざして—

生野区学校保健協議会

「歯・口の健康づくり推進事業」推進委員会

# 「生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり」 —よりよい生活習慣をめざして—

生野区学校保健協議会

「歯・口の健康づくり推進事業」推進委員会

## I 生野区の概要

生野区は、大阪市の東南部に位置し、東は東大阪市、北は近畿日本鉄道を区界に東成区、西は JR 環状線を区界に天王寺区、南は国道 25 号線および平野川を区界に阿倍野区、東住吉区、平野区にそれぞれ接している。

人口は減少傾向にあるが世帯数に大きな変動はみられない。しかし、人口密度は極めて高く、市内有数の過密区となっている。外国人登録数は全市第 1 位で、区民の 4 人に 1 人は外国籍住民である。

区内の産業は、個人経営の商店・工場が多いのが特徴で、なかでも金属加工・ゴム製品関係の製造業が多く、代表的な中小企業の町である。区の大部分が非戦災地域であり、戦前からの町並みが残り、住・商・工の混在した地域も多い。

市立の学校園は、幼稚園 1 園、小学校 19 校、中学校 9 校、高校 1 校、特別支援学校 1 校、計 31 校園と市内でも大規模な区で、万葉の時代から歴史が残されており、現在もだんじり、地蔵盆など地域伝統行事が大切に守られて下町の良さを残した人情豊かな町である。

## II 歯科保健の実態

生野区の子どもの歯・口の健康状態については、他の地域に比べ、むし歯が多

く CO・GO も多い。日々の歯科保健について指導は行っているが、特別にとりあげ、活発に行っている学校園が多いとはいえない。その中で、特別支援学校については学校歯科医会の積極的な支援もあり成果をあげている。

そこで、今回、指定をうけたことで、生野区全体の歯・口の健康状態の実態を把握し、そこから見える課題を明確にして生活習慣の改善につながる取り組みをすすめることとした。

そこで、区内の園児・児童・生徒を対象に生活習慣についてのアンケート調査を実施した。その結果、生野区の実態として、つぎのような傾向がみられた。

### A 生活習慣等について

- ・都市型の生活リズム（遅寝・遅起き）
- ・テレビ・携帯電話等の長時間視聴

### B 食習慣等について

- ・朝食は、中学・高校へと進むにつれ、摂取できていない子どもが増加。
- ・間食や清涼飲料水を飲食する子どもの割合が大きい。

### C 歯みがき習慣等について

- ・夕食後より、寝る前に歯みがきする子どもが多い。（夕食の時間にも関係）

結果、学校園だけではなく、家庭・地域等諸機関と連携して取り組む必要性を感じた。

### III 研究の概要

#### 【研究主題】

「生きる力を育む歯と口の健康づくり」  
—よりよい生活習慣をめざして—

#### 【設定の理由】

子どもが心身ともに健やかに育つことは、これからの社会全体の活力を築いていくためには重要であり、学校園が果たす役割は大きい。学校園は、心身の発育・発達の段階にある子どもが、様々な教育活動や体験的活動を通じて人格の形成をしていくとともに健康づくりの基礎的な素養が培われる場でもある。

わが国は、長寿国であるが生涯にわたってセルフコントロールする「健康寿命」の延伸が求められている。現在、生活習慣病は国民病とまで言われ大きな課題となっている。このような生活習慣病の素地は学齢期から始まるといわれており、学校園における適切な学習や指導による健康観の育成と健康行動の確立が重要である。

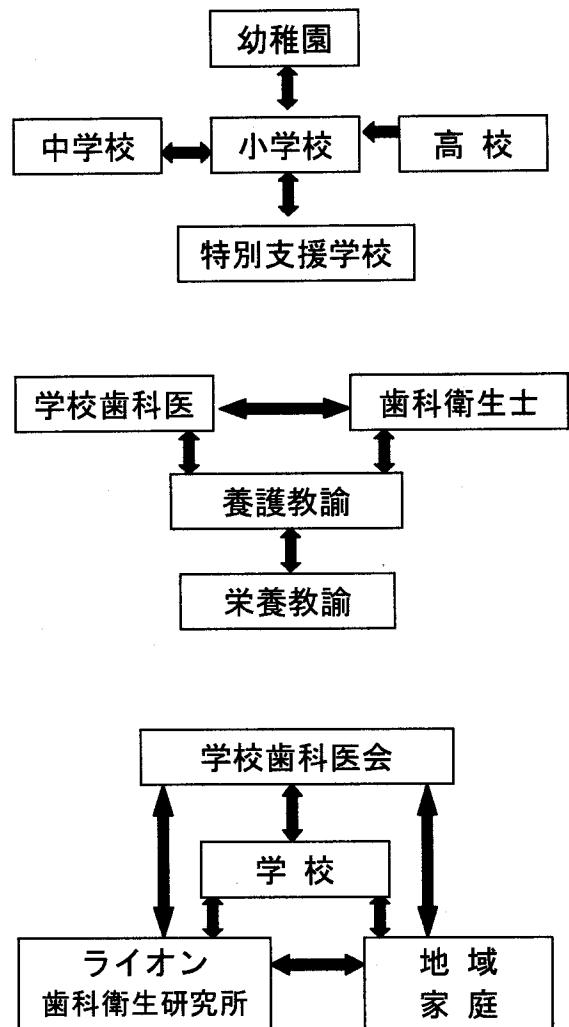
歯と口の健康づくりは、生涯にわたり健康に過ごすための生活習慣病の予防のための学習材として適しており、発達段階に応じた取り組みができると考えられる。歯と口の健康づくりの取り組みを通して、地域・家庭・幼、小、中、高、特別支援の学校園が協力しあうことで、一人ひとりの子どもたちの望ましい生活習慣を身につけるようにしたいと考える。

#### IV 研究をすすめるにあたって

生野区は、学校保健協議会を中心に従来から組織活動が活発であり、保護者と

の組織活動も有効である。これまでも、区学校医会、区学校歯科医会、養護教員会、保健主事会、保健主任会、栄養教職員会も確立されており、それぞれが各組織で研究をすすめてきた。

今回の「歯と口の健康づくり推進事業」の研究では、学校保健協議会の中に栄養教職員会の組織を加えて取り組みをすすめることとした。そして、学校保健協議会の中に研究推進委員会を設置し、研究の進め方等について話し合いをもち、歯と口の健康づくりのための研究を実践してきた。



子ども一人ひとりが、歯・口の健康をコントロールし改善できるよう、そのスキルや能力を高めていくことをめざしたい。そこで、歯・口の健康づくりには、菌・歯質・食べ物・時間の4つの要因だけでなく、下図の「歯・口の健康づくりに関係する要因図」に示すように、心と体の状態・環境・生活行動もが関係しあうことを理解し、「健康な生活習慣」をめざしたあらゆる指導が必要と考えた。

子ども一人ひとりが、歯や口の健康をめざして、課題を見つけ、主体的に考え判断し行動して習慣化へとつなげていく過程で、「生きる力」を身につけることができると考えた。

歯・口の健康づくりから、生涯を通じて自分の健康を守っていけるような生活習慣の確立をめざしていきたい。

### 歯・口の健康づくりに関係する要因図

